

## クマ出没警戒対策室の設置

4月5日、市内で熊による人身被害が発生したことから、嚴重な警戒が必要として、同日「大館市クマ出没警戒対策室」を設置しました。対策室では、緊急メール、ホームページ、ツイッター等により、市民への迅速な注意喚起と出没情報の周知を図ったほか、猟友会による現場周辺の巡回を行いました。捕獲には至りませんでした。

今後、山菜採りや行楽などで熊との遭遇が予想されることから、11月の猟期開始まで対策室を常設し、引き続き関係機関との連携を密にして警戒に当たります。

また、5月20日以降、市街地で猿が複数回目撃されていることから、被害防止のための注意喚起と情報提供に努めます。

## 秋田デステイネーション キャンペーンへの取り組み

今年10月から12月までの期間、JR6社との協同で秋田デステイネーションキャンペーンが開催されます。

市ではこれを、全国のマーケットに大館市を売り込み、市の観光を大きく飛躍させるチャンスと捉え、「オール大館」を合言葉に、様々なイベントで観光客を迎える準備を進めています。

市の顔である大館駅前では、地元振興会を中心としたオーブニングイベント

トを実施し、市内観光バスの運行、秋田犬とのふれあいコーナーの設置を行うほか、シャイニングストーリーを延長して観光客をお迎えします。



また、昨年初めてドームで開催し、2日間で8万6千人を動員した「本場大館きりたんぼまつり」は、10月12日から3日間開催し、昨年の課題を踏まえて10万人動員を目指します。

NPO法人大館・小坂鉄道レールバイクのレールバイク事業についても順調に実績を挙げてきており、観光の目玉として今後も支援していきます。

## 地域経済・雇用対策

この春の新卒者の就職状況は、市内高校、秋田職業能力開発短期大学校、秋田看護福祉大学の就職率がいずれも100パーセントと、2年連続で全ての新卒者が就職できました。

今年4月のハローワーク大館管内の有効求人倍率は、0.70倍と昨年同期との比較では0.01ポイント増加し改善していますが、景気の動向は依然不透明であり、引き続き雇用対策が求められています。

「緊急雇用創出臨時対策基金事業」による今年度の雇用状況は、24事業で94人の雇用を見込み、5月31日現在、新規雇用者56人を含め79人を雇用して

います。

また、今年度も引き続き商工会議所が実施するプレミアム商品券発行事業に対する補助を行い、地域経済の活性化を図りたいと考えています。

## 国民文化祭の取り組み状況

来年10月4日から1カ月間開催される「第29回国民文化祭・あきた2014」では、「マーチング」、「ゴスペル」、「ゼロダテ」のほか、県の主催事業である「食文化フォーラム」の4つが大館市で実施される予定です。

今年度は、本番に先立つプレ事業として「ゼロダテ美術展」や東北各地の団体が出演する「ゴスペル音楽祭 in 大館」、「マーチングバンド・バトントワリングの祭典」を開催する予定です。

今後は、国民文化祭の成功に向けて準備を進めるとともに、PR活動も行っていく予定です。

## 大館能代空港の現況

大館能代空港の平成24年度の搭乗者数は、23年度を2918人下回り、10万3704人となっています。これは、東日本大震災による交通機関の乱れから、首都圏との交通手段として空路が利用されたことで23年度に前年比1万2385人の増となったものが、事態が収まるにつれて徐々に減少した結果だと分析しています。

しかし、今年1月から3月までの利

用人数を見ると、前年比2.3パーセント、458人の増となっており、空港利用促進対策事業として実施してきた「1000円レンタカー事業」や「運賃負担軽減事業」などの効果によって減少幅が最小限に抑えられ、23年度に続いて搭乗者数10万人の万台を確保することができたと考えています。

今年度は、開港15周年となる節目の年であることから、「欠航時アクセスバス・タクシー事業」や「旅行商品拡充促進事業」などの助成事業を継続し、観光とビジネス両方での利用者増に努めるほか、新たな取り組みとして「空港企業ファンクラブ」を立ち上げ、企業利用での人と貨物の取り込みを図りたいと考えています。

## そのほかの報告

- ・ 地域医療推進学講座の開設
- ・ 公共事業の発注計画等
- ・ 環境マネジメントシステムの取り組み状況
- ・ 釈迦内工業団地整備事業
- ・ 市営新町住宅他建替事業の進捗状況
- ・ 下川沿公民館の改築事業
- ・ 第61回山田記念ロードレース大会
- ・ 平成24年度の決算見込み
- ・ 大館市工場等設置促進条例に基づく指定工場等の現況
- ・ 地域防災計画見直しへの着手と防災アドバイザーの採用